



発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033 番
③3034 番
編集兼
発行人 山下 開
半年間1,000円 送料共

14日、上村裁判公判

十四日福岡高等裁判所上村裁判(原告「上村京子さんら三人」の公判)にひきつづき本証人三人の証言が、相違する無責任ぶりに、前日にひきつづき、被告「会社」傍聴席に憎しみがみなぎった。側的主導で終結した。

炭労、春闘を収拾へ

横たわる
石炭政策
新しい結集目指す職場

これまで炭労は強く全炭鉱(早並み)をそろえてゆこうと呼びか
立派な委員長。七千人組合員) げながら、春闘をすすめてきた。
に、「重大な春闘を、最後まで足 その結果石炭協会の賃上げなどの

CO患者 宮辺さん逝去

死因は
肝硬変
三井へ新たな怒りが

また一つ、CO患者の命が消えて、三池のCO患者とその家族を深い不安が覆い、「命を奪った奴は三井資本だ。絶対に許してはならぬ」との怒りが燃えあがっている。

その人は、障害者九級という だった。
一時金とひきかえに労災法の補償を打ち切られた、CO患者・宮辺さん。入院先の、荒尾市の西辻病院で、この十四日永眠。六十四歳で、すでに停年退職の身だった。

死因は、肝硬変だという。三池労組関係のCO患者で、宮辺さんは十八人めの死者となった。三池労組は組織をあげて深く哀悼の意をさげるとともに、改めて三井独占資本の災害(昭和三十八年十一月九日の三川鉱大爆発)責任を追及する、例の大災害裁判での勝利を期している。

宮辺さんは去月初旬同病院で、盲腸手術をしたばかり。一度は退院したものの再度体調悪化、すぐ病院へ逆もどりしたものの、肝硬変とわかったときは、もはや手遅れ



妥結の概要

賃金引上げ
一方当たり三九二円(うち修正給一三二円を含む)。
金属との格差三三円を定額給に。家族手当、第二順位二、〇〇〇円(現行一、〇〇〇円)とし、その他の扶養家族手当を、一、五〇〇円(現行一、〇〇〇円)に。
最低賃金
坑内一方当たり三、九二〇円。坑外二、八〇〇円に。
特定休日
現行の八日を十日に。
弔慰金
有扶者一、二〇〇万円(現行一、一〇〇万円)、その他九〇〇万円(現行八二五万円)に。
障害者退職金
一級有扶者で、現行五〇〇万円を六五〇万円にすることから、五級のその他で二八万円を三七万円にするように、各級それぞれ引上げる。
障害見舞金
一級七〇万円、五級七五、〇〇〇円まで各級引上げる。
通勤途上災害死弔慰金
有扶者七〇万円を九〇万円、その他五〇万円を六四万円に引上げる。など。

三木内閣の打倒へ

大牟田メーデー七千人結集

五月一日の第四十七回大牟田地区統一メーデーは、午前十時から大会会場が笹井公園広場で、また大会終了後には大牟田市の中心街をデモ、メーデーのもつ意義を一般市民にアピールして終った。
祭典には約七千人の労働者・市民が結集、本紙二面のメーデー大会宣言が訴えているように、このメーデーを起点に春闘勝利、三木の会場でも、みなぎる気迫が今年の特徴だったが、それというのでも不況を口実とする資本の攻撃と、自民党政権の抑圧政策と腐敗に対する怒りがそうしたこととは明らかだった。

その証拠に、各地区各産業で春闘はなお燃えながら続いている。なお、この日は有明地区労も大会開催。終了後市中をデモ行進した。

四山指導部の待鳥英勝さんから寄せていただいた作品です。なかまの肩にガッチリとかつがれた巨大な山の男の像に、もえさかる三池のたたいの火を見る気がしました。